自動車整備

新〝整備人〟

アフター市場に挑む

●37○

オートサービス中北（愛知県一宮市）

中北 義之社長

社員の経験よりも可能性大切に

社員の「経験」よりも「可能性」を大切にしており、スタッフには未経験者を多く採用している。新しい事業にも積極的に取り組み、約4年前に水性塗料に全面切り替えを行った。その成果が実り、ペインターコンテストの国内大会では、社員が優勝を果たした。社長として、社員が生き生きと働ける環境づくりに力を入れる。

（村田　浩子）

父が建物を間借りして整備事業をしていたため、幼いころからクルマが身近にあった。私自身は、25歳の頃にディーラーの営業職に転職し、この世界に入った。それまでは洋菓子店や化粧品関連の会社など自動車と縁のない仕事をしていたため、最初は本当に苦労した。今となっては、この時の経験が会社を経営するうえで強みになっていると感じている。

当社の創業は1990年。今まで培ってきたことも大切だが、より新しい技術や知識を取り入れていくことに重きを置いている。そのため、板金塗装（BP）スタッフは、未経験者を中心に採用。昔ながらの「見て覚えろ」という曖昧なレクチャーではなく、例えば塗膜の厚さなどを数字化して、論理的に指導するようにしている。

BPスタッフは全員で7人。

独自の調色カード作り作業効率化

板金部門と塗装部門とでそれぞれ役割を分けているが、接客などは全員の仕事だ。また、朝昼夜に1回ずつ、合計3回ミーティングを開き、当日の作業内容を全員で確認している。全体の動きを共通して認識することで、作業をスムーズに行えるようにしている。

2009年ごろには水性塗料を導入した。溶剤とは方法も設備も異なるため、慣れるまでには時間がかかった。最初の頃は、分からないことがあったら自動車メーカーに問い合わせて確認したり、塗料メーカーの研修に積極的に参加して、試行錯誤を繰り返していた。社員自身も、休み時間などに自主的に練習して腕を磨いていった。

調色を一から行うのは時間がかかるため、当社オリジナルの調色カードを使って効率的に作業している。カードは当社が3年半かけて集めた情報を結集したもので、約2千枚ある。裏には番号を書き、車両が入庫したら、カードからその車両に合った色を見つけ、番号をパソコンに入力する。調色のデータはその中に全て入っているため、時間の大幅削減に効果的だ。

また、11年には、当社の転機となる出来事が起きた。BASFコーティングスジャパンが主催するペインターコンテストで、当社の社員、熊澤崇さんが全国優勝を果たしたのだ。熊澤さんは、塗装責任者としての通常業務を行いながら空いた時間を見つけて練習を重ね、大会に備えた。

当初は、私も彼も順位にはあまりこだわっていなかったのだが、順調に勝ち進み、中部大会で優勝したあたりで「もしかすると……」と期待が生まれた。ただ、この時はまさか全国大会で優勝できるとは夢にも思っていなかったので、彼の名前が呼ばれたときはみんな大喜びだった。あの時の嬉しさは、今でも忘れられない。立派なスタッフを持てたことを誇りに思う。

〈プロフィル〉

なかきた・よしゆき　高校を卒業後、洋菓子店に就職。トラックの運転手や化粧品販売員を経て、25歳の時に国産ディーラーに就職。1990年に同社に入社。愛知県出身、1963年8月生まれ、51歳。